

文部科学省 研究開発学校としての取組より（平成12年度以降を抜粋）

平成12年度より、一貫して、事実に基づく子どもの学びを基にしたカリキュラム開発を継続

【令和6～9年度】	文部科学省 研究開発学校 幼稚園教育要領における5領域の構成と要領上の用語の不一致が、小学校教師の幼児教育への理解を停滞させている一因と考える。そこで、 領域の枠組みを資質・能力の観点から再編し、要領上の用語の整合性を図る ことにより、幼小双方の教師の理解を促進し、幼小の接続を推進するカリキュラムと指導方法の研究開発を行う。
【平成29～31年度】	文部科学省 研究開発学校 幼稚園と小学校の円滑な接続に資する、子どもの学びに着目した、幼児教育と小学校教育9年間を一体としてとらえた教育課程の大綱となる「 初等教育要領 」の充実
【平成25～28年度】	文部科学省 研究開発学校 幼稚園と小学校の円滑な接続に資する、子どもの学びに着目した、幼児教育と小学校教育9年間を一体としてとらえた教育課程の大綱となる「 初等教育要領 」の開発
【平成22～24年度】	文部科学省 研究開発学校 幼稚園教育と小学校教育の接続期における円滑な接続のための 新分野創設 に向けたカリキュラムと指導方法等の研究開発
【平成12～14年度】	文部科学省 研究開発学校 社会を創造する知性・人間性を育むことをめざした新しい教育システムの開発

子どもの学びを見取る観点としても、ねらいの観点としても使いやすく、小学校の教師にとっても理解しやすいカリキュラムをめざし、神戸大学附属幼稚園の詳細な資質・能力の具体を、文部科学省が示している資質・能力の観点から再整理。

9年間を一体として捉えた教育課程の大綱となる「初等教育要領」の開発と充実を進め、「資質・能力カリキュラム」を提案（『新神戸大学附属幼稚園プラン』）

※本プランは、資質・能力のフィルターを通して、「10視点カリキュラム」を見直したものであり、詳細な資質・能力の観点を有するカリキュラムである。なお、開発・充実した本園の教育課程及び指導計画は、実践データとしての実践記録及びドキュメンテーション等を根拠としたカリキュラム・マネジメントの過程までも公開。カリキュラム・マネジメントを継続し、保育者の資質向上と保護者の幼児教育への理解促進を同時に実現する仕組みをあわせて提案。

10の方向と40の道筋で幼児教育を可視化し、幼小をつなぐ幼児期のカリキュラムを提案（『神戸大学附属幼稚園プラン』）

※10視点により幼児期の教育においてめざす方向を示し、40下位項目という詳細な観点毎に、入園から修了までの3年間の子どもの期待する学びの道筋を、ねらいの道筋として示し、「10視点カリキュラム」の取組を深める。日本の幼児教育現場において実現可能な様々なドキュメンテーションの取組も提案。

幼稚園入園から中学校卒業までの子どもの学びの過程を整理し「学びの一覧表」を作成

※「学びの一覧表」とは、本校園の幼小中の全教師が、日々の実践から「子どもの事実」、「解釈」、「学び」を「学びのカード」に書き綴り、3歳（幼稚園年少児）から14歳（中学校3年生）までの総数約6,000に及ぶ「学びのカード」を分類・整理し、ボトムアップで一覧表にまとめていったものであり、本校園における子どもの学びを体系化したもの。

神戸大学附属幼稚園の幼小を接続する資質・能力カリキュラムは、各地の市町単位でも園単位でも、教育研究の充実、教員の資質向上に向けて様々な形で活用されている

- ① 事実を基に捉えた子どもの学びを根拠とする詳細な資質・能力の観点
- ② 保育を構造的に思考し、子どもの資質・能力の発揮、伸長を自覚的に支える保育力を醸成する指導案フォーマット
- ③ 遊びや生活の中の子どもの学びの過程を可視化し、子どもと保育者、保護者間でこどもの学びの過程を共有するドキュメンテーションの様々な試み
- ④ 子どもが互いに影響を及ぼし合いながら学びに至る過程を分析的に捉え、保育者の資質向上及びカリキュラム改善に資する実践記録フォーマット
- ⑤ 遊びや生活をまとまりとして捉える長期指導計画
- ⑥ 子どもと共に教師も学び合う幼小合同学習の取組 など

【兵庫県教育委員会 幼小の円滑な接続推進事業（令和2年まで）、幼児期と児童期の円滑な接続推進事業(令和3年度から)】 平成30年度 三木市立三樹幼稚園、令和3・4年度 播磨町立播磨西幼稚園、令和3・4年度 赤穂市立尾崎幼稚園

【高砂市教育委員会、高砂市幼児保育課研修会】 平成30年度から現在に至る

【神戸市子ども家庭局幼保事業課】 平成30年度から現在に至る 公立保育所保育士研修

【新温泉町認定こども園職員研修】 平成30年度から現在に至る

【川西市教育委員会】 令和元～3年度 川西市幼児保育研究部会、令和元年度から幼小接続研修など

【尼崎市幼稚園教育研究会】 令和2～5年度 尼崎市立幼稚園全9園（尼崎市立塚口幼稚園、尼崎市立園和北幼稚園、尼崎市立園田幼稚園、尼崎市立武庫幼稚園、尼崎市立竹谷幼稚園、尼崎市立大島幼稚園、尼崎市立小園幼稚園、尼崎市立長洲幼稚園、尼崎市立立花幼稚園）

【朝来市教育委員会事務局こども育成課幼児教育研修会（朝来市教育研修所指定研究）】 令和3・4年度 朝来市立生野こども園、令和4・5年度 朝来市立大蔵こども園、令和5・6年度 朝来市立糸井こども園）

【その他】赤穂市、相生市、たつの市、宍粟市、姫路市、加西市、加古川市、播磨町、明石市、神戸市、三木市、川西市、各地の民間園など

神戸大学附属幼稚園の研究開発学校の取組に研究協力（参画） 資質・能力の具体の観点を活用する

ドキュメンテーション
（もしくは園だより）で使う

子どもの学びや育ちを発信する際に、観点を使用していなかったり、10の姿や5領域等を活用していたりしたところに、神戸大学附属幼稚園の見出している資質・能力の具体を使ってみる

指導計画（短期）で使う

環境の構成や教師の援助の一つ一つの「意図」にも「行為」にも資質・能力の具体を意識して記述する

（可能であれば、ねらいを立てる際にも資質・能力の具体を意識する）

二つのうちのどちらかもしくは両方

アンケートへの回答

可能であれば、令和8と9年度の両方、難しければどちらか

研究開発学校の取組に参画するメリット！

ドキュメンテーションで活用

- 幼児教育における遊びや生活の中に豊かな学び（資質・能力の育ち）があることを語る力がつく

- 資質・能力への理解が深まる

- 日本の国の幼児教育の発展に関われる

- 資質・能力を育むことにつながる手立て（環境の構成・教師の援助）が明確になり、自分自身が何をどのように考えて保育をしているかを語る力がつく

指導計画で活用

研究協力への説明進捗状況 (令和7年10月20日現在)

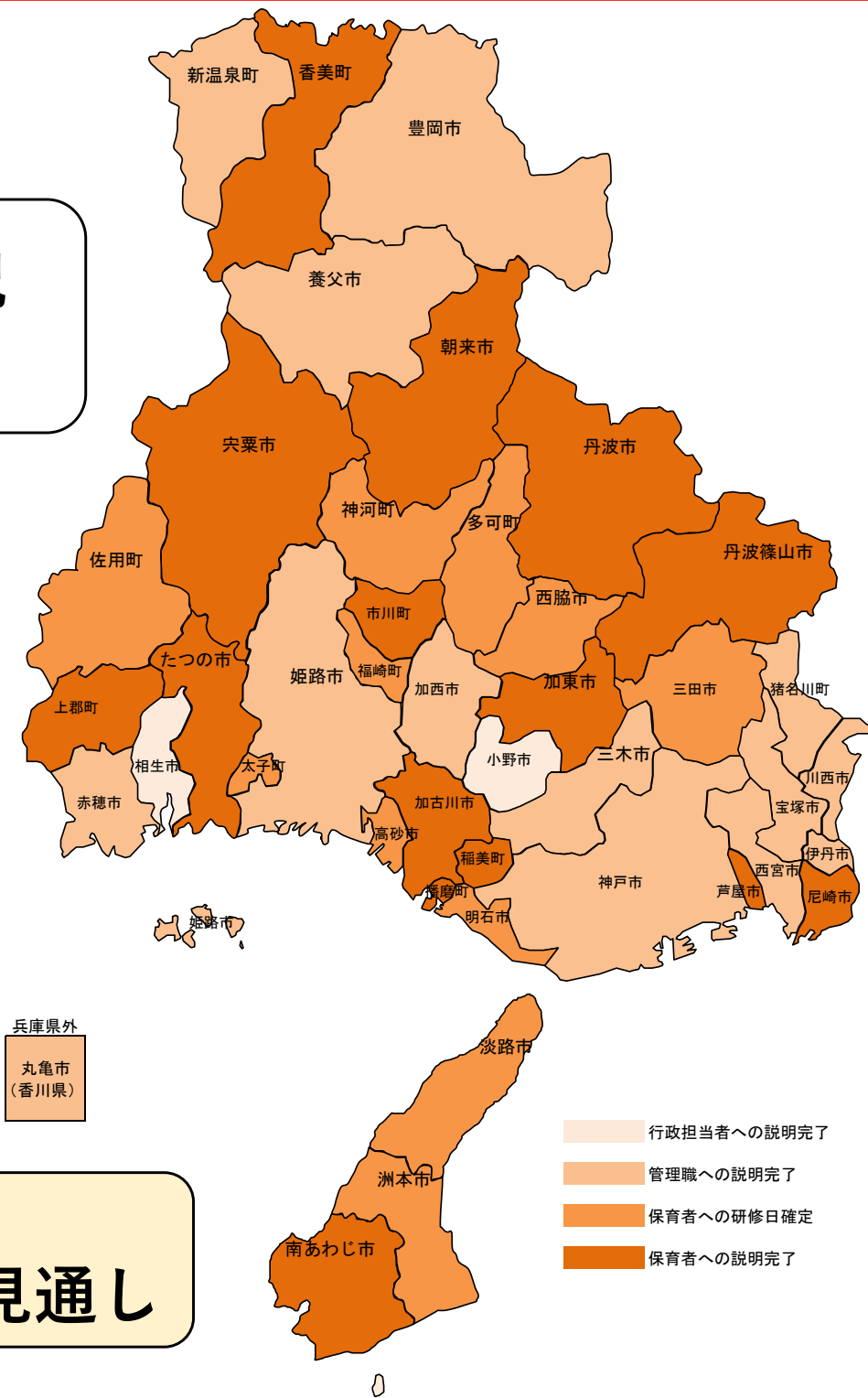
令和6～9年度の

神戸大学附属幼稚園の
研究開発学校の取組に
参画することを通して

各市町の架け橋プログラムの取組に
役立てていただくとともに
兵庫県から要領の改訂に向けた発信に

ぜひ参画を！

上記の呼びかけを通して
兵庫県全域に協力いただける見通し



神戸大学附属幼稚園の取組

【取組の目的】

神戸大学附属幼稚園の文部科学省研究開発学校の取組への研究協力を、各地の幼児教育施設における職員研修に位置付けることを通して、兵庫県全域の幼児教育施設の職員が資質・能力への理解を深め、資質向上を目指すとともに、日本の幼児教育の発展に資する

【取組の概要】

神戸大学附属幼稚園は、これまで幾度となく文部科学省の研究開発学校の指定を受け、日本の幼児教育施策に資する取組をおこなってきた。一貫しておこなってきたボトムアップ型のカリキュラム開発の取組において様々な知見を積み重ねている。また、長年継続して取り組んでいる参加型の幼児教育を考える研究会において、本園の教育研究の知見を活用した研修を通じて、カリキュラム開発において積み重ねてきた知見と研修方法のよさを体験することにより、各地域や各園に持ち帰ってもらうことも継続してきている。それらカリキュラム開発の知見や研修方法は、兵庫県教育委員会の事業により研究指定を受けた園、各市町の教育委員会等より研究指定を受けた園等に継続的に活用されている。また、研究指定を受けずとも各市町の職員の資質向上を目指した取組、市町を超えたグループの取組、各園の取組など、各地の幼児教育施設において広く活用されている。活用の際に、出来る限りの協力をしてきており、毎年50件前後の講師派遣実績を積み重ね、地域や園の要請に応じてきている。これら、文部科学省の研究開発学校としての取組により得られた知見や参加型の研修方法が、各地域、各園において実際に活用できるものであり、活用することで確かな効果を感じてもらえるものであること、地域の幼児教育施設の要請に応じて幼児教育研究への協力を積み重ねてきたことによって得られた本園の取組への信頼があることは、本園の大きな強みとして捉えている。

現在取り組んでいる令和6年度から令和9年度までの文部科学省の研究開発学校の取組においては、兵庫県全域の幼児教育施設の職員が資質・能力への理解を深め、資質向上を目指しつつ、日本の幼児教育の発展に資する取組とすべく、各市町の教育委員会等幼児教育を担当する部局、各園の管理職、保育に直接携わる保育者へと順次説明をおこなっている。兵庫県全域に協力いただける見通しであり、兵庫県を一つの大きな地域と捉え、広域な地域の幼児教育研究のハブとしての機能を果たしつつ日本の幼児教育の発展に資する他に類を見ない取組であると考えている。